

議 事 録

会 議 の 名 称	第 1 2 回小川北学区義務教育学校開校準備委員会																																																
開 催 日 時	令和 2 年 2 月 2 7 日 (木) 1 9 時 0 0 分～1 9 時 4 5 分																																																
開 催 場 所	小川総合支所 3 階 大会議室																																																
出 席 者	<p>【出席委員】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>沼田 誠司</td> <td>田村 孝広</td> <td>澤 英治</td> <td>芝田 健二</td> </tr> <tr> <td>織田 剛</td> <td>市根井克年</td> <td>藤田 康広</td> <td>櫻井 謙治</td> </tr> <tr> <td>久保田達雄</td> <td>長谷川美智子</td> <td>川澄 芳英</td> <td>萩野谷邦夫</td> </tr> <tr> <td>高野 郁</td> <td>関澤 恒美</td> <td>皆藤 正造</td> <td>小森 真史</td> </tr> <tr> <td>高久 誠二</td> <td>萩原 栄</td> <td>細山 美好</td> <td>中川 稔</td> </tr> <tr> <td>成井 嘉男</td> <td>鳥羽田 力</td> <td>田村 昌男</td> <td>長島 幸男</td> </tr> <tr> <td>幡谷 好文</td> <td>石井 旭</td> <td>櫻井美智子</td> <td>大曾根慎悟</td> </tr> </table> <p>【欠席委員】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>小川 勲</td> <td>吉田 洋子</td> <td>片岡 友加</td> <td>戸塚 良和</td> </tr> <tr> <td>成井 志野</td> <td>沼田 和幸</td> <td>山口 恵子</td> <td>田上 光一</td> </tr> <tr> <td>松本 和恵</td> <td>皆川 卓夫</td> <td>高野 晴夫</td> <td></td> </tr> </table> <p>【事務局】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>加瀬 博正</td> <td>菅谷 清美</td> <td>片岡 理一</td> <td>野尻 秀子</td> </tr> <tr> <td>植田 薫</td> <td>入野裕美子</td> <td>田口 智大</td> <td></td> </tr> </table>	沼田 誠司	田村 孝広	澤 英治	芝田 健二	織田 剛	市根井克年	藤田 康広	櫻井 謙治	久保田達雄	長谷川美智子	川澄 芳英	萩野谷邦夫	高野 郁	関澤 恒美	皆藤 正造	小森 真史	高久 誠二	萩原 栄	細山 美好	中川 稔	成井 嘉男	鳥羽田 力	田村 昌男	長島 幸男	幡谷 好文	石井 旭	櫻井美智子	大曾根慎悟	小川 勲	吉田 洋子	片岡 友加	戸塚 良和	成井 志野	沼田 和幸	山口 恵子	田上 光一	松本 和恵	皆川 卓夫	高野 晴夫		加瀬 博正	菅谷 清美	片岡 理一	野尻 秀子	植田 薫	入野裕美子	田口 智大	
沼田 誠司	田村 孝広	澤 英治	芝田 健二																																														
織田 剛	市根井克年	藤田 康広	櫻井 謙治																																														
久保田達雄	長谷川美智子	川澄 芳英	萩野谷邦夫																																														
高野 郁	関澤 恒美	皆藤 正造	小森 真史																																														
高久 誠二	萩原 栄	細山 美好	中川 稔																																														
成井 嘉男	鳥羽田 力	田村 昌男	長島 幸男																																														
幡谷 好文	石井 旭	櫻井美智子	大曾根慎悟																																														
小川 勲	吉田 洋子	片岡 友加	戸塚 良和																																														
成井 志野	沼田 和幸	山口 恵子	田上 光一																																														
松本 和恵	皆川 卓夫	高野 晴夫																																															
加瀬 博正	菅谷 清美	片岡 理一	野尻 秀子																																														
植田 薫	入野裕美子	田口 智大																																															
協 議 案 件	(1) 専門部会からの報告 (2) 校名の選定について																																																
会 議 資 料	別 紙 (会議次第, 他)																																																
記 録 方 法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録																																																
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 (傍聴者 2 人)																																																

【事務局より報告】

市議会議員改選に伴い、新たに委嘱された委員の報告
新委員：田村 昌男

【教育長あいさつ】

今回が本年度最後の会議となります。主な議題は、校名を決めていただくことです。慎重な審議をお願いします。よい校名を付けていただければありがたいです。

【委員長あいさつ】

本年度最後になりますが、今回は、各部会からの報告、そして校名の選定ということで、重要な会議となります。よろしくお願いします。

【協 議】

(1) 専門部会からの報告

委員長 総務・通学部会の協議結果について、部会長より報告をお願いしたい。

資料1に基づき、部会長より報告

部会長 制服については、第11回準備委員会にて「LGBT等性的少数者でない場合でも、女子用スラックスを選択できるのか」という意見が挙げられたため、選択を可能とするか、協議した。その結果、「LGBT等性的少数者に限らず、全ての生徒が女子用スラックスを選択可能とし、男子の場合もスラックス・スカートのどちらも選択可能」とした。

通学体制については、まず、遠距離通学支援の手段を検討した。市内の公共交通機関は、小川北中学校方面へ向かうものもあるが、運行時間や本数、停留所の位置等から判断すると、通学支援に利用するのは難しい。そのため、遠距離通学支援の手段は、スクールバスとした。次に、遠距離通学支援の対象となる児童について、「対象を定めずに、原則自由」とした。遠距離通学の基準となる距離が3kmであることから、スクールバスの乗降所は、新しい学校からの距離が3km以上となる場所に設置する。対象を定めないことにより、学校までの通学距離が3kmに満たない児童であっても、乗降所からバスに乗って通学することができる。

また、スクールバスの乗降所や運行経路の検討を進める上での基本的な考え方について、確認を行った。具体的な乗降所の位置やスクールバスの運行経路については、部会資料1の考え方に基づき、今後検討を進めていく。

制服・体操服第一次選定の結果について、事務局より説明

事務局 1月15日・22日に行われた第一次選定では、事業者（制服は5社、体操服は4社）からの提案をもとに、審査を行った。審査方法は、まず、事業者の提案1セットごとに、審査員が、審査項目別に得点を付ける。審査項目は、価格、機能性・快適性、デザイン、耐久性・メンテナンス性の4項目である。次に、4項目の点数を合計し、事業者の得点とする。そして、1セットごとに得点の平均を出し、平均点の上位3セットが最終選定の候補とな

る。この方法による審査の結果、制服・体操服各3セットを、最終選定の候補として選定した。今後、最終選定は、4月のPTA総会の日、小川北学区の各小中学校で実施する予定である。最終選定では、第一次選定により選定した制服・体操服各3セットを展示し、保護者と教職員による投票を行う。投票により最も多くの票を得た提案を第一候補、次点を第二候補として選定する。

委員長 総務・通学部会の報告及び事務局の説明に対し、意見や質問等はあるか。

— 意見等なし —

委員長 では、準備委員会の承認を得たものとする。続いて、PTA部会より報告をお願いしたい。

資料2に基づき、部会長より報告

部会長 PTA部会では、令和5年の開校に向けて、PTA規約の検討を進め、令和3年の12月までに決定する。令和3年度からは事業計画の検討も行い、令和5年の1月には全て決定する。開校時、スムーズにPTA活動が行えるよう、計画している。

新しい規約については、野田小・上吉影小・下吉影小・小川北中の規約と、統合を先行する玉里学園義務教育学校の規約を参考に、検討を行った。基本的には、小川北中の規約を基に作成していくこととした。例えば、規約の中で「生徒」となっている部分を「児童・生徒」と直したり、小学校の規約を参考に文言を加えたりといった作業を、項目ごとに一つ一つ行った。できるだけ組織は小さくし、PTAの負担を少なくするというを考えて作成している。第1回での決定事項は、部会資料6のとおりである。

委員長 PTA部会の報告に対し、意見や質問等はあるか。

— 意見等なし —

委員長 では、準備委員会の承認を得たものとする。決定事項のうち、検討継続とある事項については、引き続き部会で検討をお願いしたい。続いて、学校運営部会より報告をお願いしたい。

資料3に基づき、部会長より報告

部会長 学校運営部会では、部会資料7のスケジュールに従い、資料記載の項目について、各校での統一に向けて、協議を進めた。日課表は令和2年度内に検討し、令和3年度より運用開始予定とした。総合的な学習の時間は、令和2年度より資料3の表のとおり行っていくこととした。外国語については、令和2年度より共通のALTが配置されるので、授業スタイル等を英語部で検討する。学習のきまり・生活のきまりについては、小川北中学校のきまりを

基に考えていくことになったが、中学校と小学校の生活のきまりでは、髪型等、かけ離れている部分もあるので、PTA部会の意見もいただく必要がある。例えば、中学校では女子の髪留めのゴムの色等も指定されているが、それを小学1年生にも適用させるのかといったことである。小・小連携事業としては、令和3年度より、5年生の自然教室が同班になることを考え、他学年でも遠足を合同で実施する。そのためには、バス・施設等の予約の関係から、担当校を令和2年度当初に決定し12月中には予約を入れる必要がある。各校で養護教諭から出ている「健康管理カード」「引き渡しカード」等については、早くから統一した方がよいということで養護教諭部会に要請したところ、早速検討していただき、ほぼ出来上がった。来年度の新入学児童説明会等で配布することを目標に、内容の再検討を行っている。教育計画作成については、玉里学園義務教育学校のものを基に検討し、令和2年度1月中に分担表を完成させ、各担当に作業内容を伝えたいと考えている。担当が決まれば各部会で検討していただくことになるが、全体的な合同研修会は時間の制約があるため設定せず、担当ごとに放課後に短時間で話し合いを行う。また、学校グランドデザインの大筋を小川北中学校長より作成していたので、それを基に、今後、部会の作業を進めていきたい。

委員長 学校運営部会の報告に対し、意見や質問等はあるか。

— 意見等なし —

委員長 では、準備委員会の承認を得たものとする。

【協議】

(2) 校名の選定について

資料4～5に基づき、事務局より説明

事務局 校名については、前回の準備委員会で決定した募集要項に基づき、募集を行った。募集の結果、合計で402通の応募があり、そのうち有効応募数は391通である。氏名の記載がなかったもの等、無効となったものが11通あった。同一人物により同じ選択肢に複数投票があった場合は、1票分のみ有効とした。応募数の内訳は、「小川北」が165、「おがわ北」が12、「野田吉影」が29、「小川中央」が45、「臨空学園」が115、その他の自由記述が25という結果だった。応募者の内訳は、一般の方が37人、小学生が262人、中学生が92人だった。主な応募理由として、「小川北」については、馴染みがある、小川南小・小川南中があるから小川北を残したい、伝統のある名前を残したいといった意見があった。「おがわ北」は、小学生でも読みやすい方がよいという理由だった。「野田吉影」については、学校の名前が組み合わせられてよい、3つの学校の面影が残っていてほしいという意見があった。「小川中央」は、小川の中央にあって目立つ、色々な学校が集まったイメージがあるという理由だった。「臨空学園」については、学校の近くに茨城空港があるので「空」がつくとカッコいい、「学園」とい

うところが特別感や楽しいイメージがある等の意見があった。

今回は、募集結果を基に校名候補として1点を決定することになるが、今回の準備委員会で決定した校名については、学校設置条例を改正する手続により3月の市教育委員会・6月の市議会に上程し、議決を経て、最終決定となる。校名の選定方法について、準備委員会でどのように校名を一つに決定するかは、具体的に決まっていない状況である。そのため、始めに、選定方法について協議していただきたい。資料には事務局の案を記載している。まず、募集結果をもとに、各小中学校ごとのグループで話し合いを行い、各グループで1点（1点に絞れない場合は2点）を選定する。その後、各グループの協議結果を発表し、その結果をもとに全体で話し合い、1点を選定するという案である。全体の話し合いで決まらない場合は、グループ協議の結果選定した校名案の中から、各委員が1点を選定し、投票を行う。投票により、出席委員の過半数の票を得たものを校名候補とする。なお、校名の募集要項では、選定方法については「応募数の多いものを校名案として決定するのではなく、寄せられた校名案を参考に、準備委員会で校名候補を選定」としている。

委員長 校名の選定方法については、事務局案のとおりでよろしいか。

— 異 議 な し —

委員長 では、事務局案に従って進めていく。各小中学校のグループで協議をお願いしたい。

— グ ル ー プ 協 議 —

委員長 各グループの協議結果を発表していただきたい。

上吉影小 「小川北」がよい。今まで中学校があったところに3つの小学校が統合するので、馴染みがあること、地域に密着していること、現在小川南中学校があることを考えると、「小川北」が最も適している。

野田小 「小川北」と「臨空学園」の2つから決めてはどうか。募集結果を尊重し、市のダイヤモンドシティ・プロジェクトに合った輝きのイメージや馴染みのある「小川北」とするのもよいが、そこからさらにもう一段飛び出すという意味で「臨空学園」もよい。

下吉影小 「小川北」がふさわしい。馴染みのある地名を残した方が、郷土愛が育まれる。慣れ親しんでいる名前なので分かりやすく、住民の方も受け入れやすいのではないか。

小川北中 「小川北」がよい。応募の理由が全て納得できる。小川北中の伝統を生かしつつ、新たな学校を築いていきたい。

委員長 グループ協議の結果をもとに、1つに絞りたいと思う。どのグループも「小川北」を選んでいるので、2つの校名を挙げた野田小グループで異論がなければ、これで決定となるが、いかがだろうか。

野田小 それで問題ない。

委員長 全体に再確認だが、「小川北」に決定するという事によろしいか。

— 異 議 な し —

委員長 では、校名は「小美玉市立小川北義務教育学校」に決定する。

【その他】

来年度の準備委員会のスケジュールについて、資料6に基づき、事務局より説明

事務局 来年度の準備委員会は、計4回開催予定としている。今後は、各専門部会からの報告に対する検討がメインとなる。

それぞれの部会について、総務・通学部会は3回程度開催としている。来年度からは、主に通学体制の検討、校章や校歌の検討を行う。制服・体操服については、4月に最終選定を行った後、6月の準備委員会でその結果を報告し、その後、令和3年度の着用開始に向けて事業者との準備を行っていく。学校運営部会は随時開催とし、部会報告の中で説明があったスケジュールに沿って進んでいく。PTA部会は、3回開催予定とし、来年度も、引き続きPTA規約の検討を行っていく。

【委員長あいさつ】

準備委員会の立ち上げから3年間、委員長を仰せつかって進めて参りました。皆様で建設的な意見を積み重ねてここに至ることができ、すごくありがたく思っています。まだまだ関わりたいところもありますが、定年退職ということで、今回を最後に退かせていただきたいと思います。どうもお世話になりました。

【副委員長あいさつ】

2年前、この会の一員になり、委員長とともに、皆様のご協力をいただきながら進めて参りました。私は、下吉影・小川北中で育ち、現在に至っているので、人一倍この地区と学校に愛情があるつもりです。3月で退職ですので、4月以降は地域住民として、素晴らしい学校になることを楽しみにしながら、貢献していきたいと思えます。お世話になりました。

19：45 閉会